

建設通信新聞

オオバ・パシコンJVを特定

宮城県 広域防災拠点基本設計

宮城県は、広域防災拠点基本設計業務の委託に伴う公募型プロポーザルを実施した結果、オオバ・パシフィックコンサルタンツJVを最優秀提案者に特定した。近く契約する予定だ。履行期限は2015年3月20日。建設用地の仙台貨物ターミナル駅移転完了後となる19年度に着工し、20年度の完成を目指す。

仙台市宮城野区宮城野原の宮城野原運動公園隣接地にある同駅跡地約17畝に、東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模

模災害発生時に迅速かつ的確に災害応急活動を行うための拠点を整備する。県民を災害から守るとともに、被災自治体などを支援するための機能などを備える方針だ。

主な導入施設・機能には、前線基地として指令や調整を行う防災センターのほか、ヘリポート、荷捌き場・トラックターミナル、広場（集結・野営場所）、雨水貯留施設、耐震性貯水槽、給油スペースなどを挙げている。

業務内容は、▽基本構想お

よび計画の整理・検討▽公園の基本設計▽防災センターの基本計画——など。委託上限額は2709万7200円（税込み）に設定している。

総事業費は約300億円で、内訳は用地取得費が270億円、調査・設計費4億円、建設費26億円となる。